

ひ ぞうぶつ かこ 被造物に 囲まれて

よる になって、いけの ほとりに い 行ってみた。

ガマが 月明かりの下で ゆれている。

ホタルが 光り、カエルが 歌い始めた。

セミや コオロギも、その やさしい 調べに 加わった。

こしを 下ろして、草むらに 手を 走らせてみた。

水面は じっと 動かず、まるで かがみのよう。

すると、カエルが 上品に 水に 飛びこんだ。

フクロウも、低音の 鳴き声で 賛美に 加わった。

ぼくは、しせいを くずして くつろいだ。

コオロギが 歌うと、キツネも ウサギも やって来た。

キツネと ウサギは 古くからの 友だちのように 語らい、

美しい かがやきを 親しげに 投げかける 月を、じっと 見つめる。

ぼくは 動物たちと、じっと そこに すわっていた。

そして、世界の 始まりや 終わりについて 思いを はせた。

ぼくの 思いは、賛美の 雲に 乗って まい上がる。

夜になると、ぼくは 被造物に 囲まれる。

